

町田地区保護司会だより

第92号

発行 町田地区保護司会
会長 平本 章一
編集 広 報 部
TEL 042(794)6791



彼岸花（三輪 熊野神社）



ご挨拶

東京保護観察所立川支部

支部長 杉山 多恵

本年春の人事異動で、関東地方更生保護委員会からまいました杉山多恵と申します。係属する保護観察事件数約千件、五つの更生保護施設、千名の保護司の皆様が活動される多摩地区を管轄する東京保護観察所立川支部長としての責任の重さを痛感しておりますが、何卒よろしくお願ひいたします。

近年、再犯防止が大きな社会問題となり政府の喫緊の課題となる中、更生保護においても強靭な更生保護制度の実現を目指した改革が進められ、今日の様々な新規施策導入の流れへと続いていることはご承知の通りです。更生保護の基本理念として更生保護関係者が持ち続けてきた「惻隱の情」、「立ち直りへの寄り添い」といった精神を保持・継承しつつ、「再犯防止」「安心・安全な社会の実現」という社会のニーズに応えていくという、極めて難しいバランスの上に置かれているのが、現在の更生保護の姿といえます。

保護司制度につきましても、地域の事情を知悉

しているという特性を活かし、制度発足以来、保護観察官と協働して更生保護を支えてきた保護司が行う処遇等の諸活動が、対象者の抱える問題の複雑・多様化、地域社会の連帯感の希薄化などを背景として困難さを増していること、こうした活動の困難化や負担の増大等を背景に、新たに保護司を委嘱される方が減少し、全体としての保護司数が四年連続して減少を続けているなど、保護司候補者の安定的確保につきましても、対応すべき重要な課題となっています。

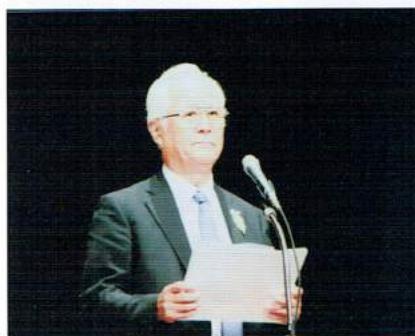
このように山積する課題を抱え、今まさに転換点にある更生保護制度ですが、日々第一線でご尽力くださっている保護司の皆様の意見に耳を傾け、地域のニーズにしっかりとアンテナを張りながら、職員とともに一つ一つの課題に取り組んでいく所存です。

皆様の引き続きのご支援、ご協力をお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

第63回 「社会を明るくする運動」町田大会 《式典及び記念講演》

～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～

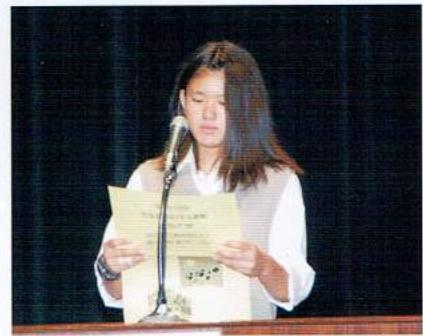
演題 「子どもたちの未来 共に考えてみませんか」 講師 幸島 美智子



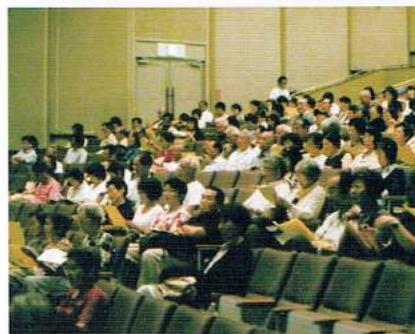
平本推進副委員長挨拶



鷺北推進委員長代理挨拶



作文を朗読する中学生



客席風景



講演する幸島美智子先生



花束贈呈

7月30日(火) 町田市民ホールに於いて、午後1時30分より開催されました。

司会は、推進委員の町田市公立小学校校長会の山下勝弘氏により進行し、推進委員会副委員長の町田地区保護司会平本璋一會長の大会宣言に始まり、推進委員長石阪丈一町田市長が公務で欠席のため、鷺北秀樹町田市副市長による挨拶がありました。

続いて町田市市議会議長田中修一様、東京保護觀察所立川支部長杉山多恵様、ご両人よりご祝辞をいただきました。

そして、町田市教育委員会教育長渋谷友克様、警視庁町田警察署生活安全課長曳地清一様、警視庁南大沢警察署生活安全課長三澤誠様の来賓紹介があり、その後、第62回「社会を明るくする運動」作文コンテストで佳作を受賞された二人の朗読です。

1作目は、“正しい気持ちとやさしい心”と題し、町田市立成瀬台中学校1年生小野龍太郎さんより、2作目は、“人間の力”と題し、町田市立忠生中学校2年生的場萌衣さんの朗読で、会場は

感動の渦となりました。

この作文の朗読については、昨年に引き続いで皆様に大好評です。以上で式典は終了し、舞台の設営のため小休憩の後、記念講演となりました。

記念講演は、『子どもたちの未来 共に考えてみませんか』～親と子どもたちの絆をよりいっそう深めるために～の演題で、講師の元警視庁警察官、子育てアドバイザー幸島美智子様よりお話をいただき、次代を担う基礎作りに努力をしていく大人に、大きな絆と力をいただきました。講演終了後、講師幸島美智子様へ、推進委員の町田市子ども会育成会連絡協議会浅沼悦子様より感謝の気持ちを込めて花束の贈呈があり、盛大な拍手でお見送りいたしました。

終盤に入り推進委員の東京都立成瀬高等学校松澤兼行氏より閉会の言葉と、今年度の小・中学生作文コンテストについてのご案内と今後の「社会を明るくする運動」への協力をお願いし、第63回「社会を明るくする運動」町田大会の全プログラムは、滞りなく終了となりました。

(地域活動部長 内田 純子)

◇第6ブロック 保護司組織運営連絡協議会報告◇

協議テーマ 保護司の安定的確保について

10月31日八王子市東急スクエアビルにおいて、第6ブロック保護司組織運営連絡協議会が開催された。今年度の協議テーマは「保護司の安定的確保について」が、統一テーマであった。

当地区的協議員は、鳴崎・小山・諸墨各副会長、吉川・原・中岡・春山・松沢各分区長、中里サポートセンター長、小野広報部長、藤牧総務部長、村田総務副部長、計12名であった。

今回のテーマは、私たちが現在最も関心を寄せ、考えていかなければならない事案といえる。前半に、西多摩・町田地区保護司会、途中に休憩をはさみ、後半に日野・多摩・稲城、八王子地区保護司会の順でそれぞれの協議員が意見発表した。発表後は、質疑応答で2時間の協議であったが、熱意あふれる会場の雰囲気の中、あっという間に過ぎていった。

最後に東京保護観察所大矢所長・東京保護司会連合会菅田会長より講評があり、「なによりも、この問題



は保護司が全員参加で取り組む姿勢が重要である。」と、ご講評をいただいた。

来年度の当番地区は、町田地区保護司会である。平本会長が、来年の再開を祈念し閉会の辞を述べた。

その後、会場を八王子市の夜景が一望できるロケーションの良い場所へと移し、懇親会が開かれ緊張と熱気の会議から一転、和やかで笑顔の歓談の場が繰り広げられた。

(総務部 村田 功)

《青少年健全育成との連携》 炎天下の中、汗だくの広報活動

町田分区 加藤 俊夫

青少年健全育成原町田地区委員会主催の第3回原町田ふれあい祭りに参加しました。10月12日町田二小校庭が会場で、快晴の中実施されました。

暑い日差しの中で、冷たいお茶の接待と保護司紹介のリーフレット配布を行いました。21店舗出展者の一員として、消防団や民児協、地域サークルと共に、楽しい一日で交流の輪が広がりました。

連絡協議会の宮島会長と面識があり、原町田地区のイベントに、初参加となりました。保護司会との関係は、各分区会の活動報告にあるように、総会や諸活動の応援という形で、連携を行ってきた実績があります。今回は、町田地区保護司会の活動を啓蒙・広報を積極的に進める足がかりとし



て、活動の場を提供していただきました。

隨 想 昔の流行歌

東京保護観察所立川支部
保護監察官 武井 和宏

「骨まで～骨まで～骨まで愛してほしいのよ」
小学校低学年の頃、学校帰りに友達と3人で歌つたら、親から「あんたその歌だけはやめなさい」と叱られた。

高校を出た頃、「やめろと言われても」と西城秀樹の歌が流行った。今思えば、前の歌は親のいう事を聞くか、友達から仲間外れにならないかを迷う初めての経験の歌だったし、後の歌はやめたくともやめられない依存症の歌だったのか。魚嫌いの子にDHAやカルシウムなどの栄養素をたっぷり含んだ魚をまさかあの頃から歌にしていたとは思えないが、時が経てば、また、就いている職業によれば、昔流行った歌もまた違った解釈で口ずさむことができる今日この頃である。

直立不動の東海林太郎が、英語の歌詞でリズムを取っても、デュエットやグループになって踊っても、何年か後に昔流行った歌を新しい解釈をしながら口ずさむ日がまた将来やってくるのかも知れないと思う。



南分区恒例の更生保護施設支援チャリティバザーは、4月のさくら祭りが天候不順で中止となり、8月3・4日の成瀬まつりへ参加しました。

会員と桐友会有志が黄色のお揃いのTシャツを着てポップコーンとコンニャク味噌田楽の販売、ティッシュ等を配布して、人目を引いた広報活動になったと思います。売り上げは、更生保護法人「鶴舞会」へ寄付しました。

鶴舞会は今年2月に建て直しされ、分区会などに会議室を利用させてもらっています。11月には入所者の交流会が「そば打ち学習会」として企画され、保護司も参加の予定です。

また、会員の廣瀬順一氏が春の叙勲において瑞寶雙光章を受賞されたので、9月1日にホテルザ・エルシィにて祝賀会を開催しました。式典は格調高く、宴会は、廣瀬氏ゆかりの人たちと和やかに、そして余興もあり楽しくおおいに盛り上がりました。

(南分区 木村恵里子)

各分区の活動

町田分区 ザ・フェスタ栄通りパレード

平成18年からこのパレードに参加させていただき、7年目になりました。毎年、残暑厳しい午後2時頃の集合で、帽子、水と暑さ対策をしての参集です。

町田駅の北側、旭町から中町の若葉通りと栄通りの商店会主催でテーマは「交通安全・防犯」。パレードは、警察署長・市長、防犯協会関係者の乗るオープンカーを先頭に、交通少年団、安全協会、母の会、ボーイ・ガールスカウトと続きます。

吹奏楽団やゼルビアのマスコットが賑やかにし、こひつじ幼稚園の年長さんは毎年可愛いダンスをしながらの行進。トリを務めるのは、ひと際目を引くぞっこん町田のよさこい踊り。町田分区は、毎年幼稚園児の後ろを保護司会の旗を先頭に社明のぼり旗を掲げ行進します。

このパレード参加に至るまでには、様々な試行錯誤がありました。農協の祭りや、カリヨン広場での広報活動です。仕事を持つ人が多い町田分区の事情もあり、これ以上の負担を増やすわけにはいきません。これがベストだとは思っていませんが、今のところベターな選択だと思っています。

更生保護の広報活動は、理念と現実はなかなか一致させるのは難しいと思います。しかし、理念を伝えながらも地域に更生保護に係わる活動をしている人達の顔を見せる事が信頼関係を構築する事になるのではと思っています。

(町田分区長 春山 幸子)



鶴川分区の秋の「社明」活動は、昨年講演会実施、20回という節目を迎えて、今年度からはどのように展開するかを検討した結果、パネルディスカッションということになった。10月の代表者会議では、30名近いご出席のもと、来年に向けてのご意見を出していただき、アンケートも実施した。

11月5日、テーマ～鶴川の子供たちの今、そしてこれから～をご自分の立場を踏まえて、協議してくださったパネリストは下記の6名の方々。

座長は前副会長小林文子保護司が務めた。

・高橋圭子氏 町田市教育委員会委員

・花田英樹氏 町田市立鶴川中学校校長

- ・加藤和重氏 町田警察署生活安全課課長代理
- ・石井和正氏 青少協鶴川第二地区委員会会長
- ・小路 葵氏 町田市立鶴川第一小学校PTA会長
- ・小宮長治氏 保護司・少年補導員

会場を埋めた200人近いPTAの若いお母さんたちから次々に質問があり、特に集中したスマホの問題は、パネリストのご意見もいただきながら充実した協議となった。

(鶴川分区長 中岡 秀子)



忠生分区 最高裁判所見学

10月8日、忠生分区の自主研修として千代田区三宅坂の最高裁判所を見学した。この建物は1974年、茨城県産の御影石を用いて建てられ、重厚な外観である。最高裁は高等裁判所の判決に対して不服申し立てを取り扱う最上級の裁判所である。

職員に案内された大法廷は、天井が円型の吹き抜けになっているため全体が明るく、正面には15人の裁判官の椅子がずらりと並んでいた。正面と後方の壁には太陽と月がデザインされた大きな西陣織のタペストリーが2枚ずつ掛けられ、まるで劇場を思わせるように美しく装飾されていた。

最高裁に上告するには法律や判例に反する等の理由が必要であるため、棄却されることが多いと聞いた。今年、最高裁が受理した事件の数は民事・刑事色々含めて1万件を超えており、そのほとんどが5人の裁判官による小法廷で審理されているそうだ。その中で特に重要でこれまでの判例を変更する可能性の高い事案についてだけ、15人の裁判官による大法廷で審理・判決がなされ、今年は7月の婚外子の相続分についての裁判と10月の衆議院選挙の1票の格差の裁判の2種類だけが行われたという。

今回の体験で、今後最高裁のニュースの見方が少し変わるような気がした。次は東京地方裁判所で実際に行われている刑事裁判を傍聴してみたいと思った。

（忠生分区 野口 リヨ）



連携に関わる主な会務（25年4～9月末日）

- ・5月20日 地区保護司会新旧会長・副会長と石阪町田市長・鷺北副市長への表敬訪問及び懇談
- ・9月12日 町田地区青少年健全育成地区委員会連絡協議会との懇談、会長以下5名（於：町田市役所）
- ・9月19日 町田警察署表敬訪問及び懇談 熊澤相談役、会長以下3名（於：町田警察署）

堺分区 相原フェスタで地域広報活動 ～社会を明るくする運動～



各分区の活動

10月13日、相原中央公園で相原ふれあいフェスティバルが開催された。今年で10周年を迎えたフェスティバルは、絶好の祭り日和で、10時には沢山の来場者が列をなす盛況で始まった。

この数年、堀分区の「社明活動」は、この会場の一角のテントを確保し、一日かけて広報活動を行ってきた。今年は1万人を超える人が来場、テントの前の通りには渋滞ができるほどの人の集まりであった。地域の方々の手作りフェスタで、あちこちのテントに顔なじみがいて、それぞれが和気あいあいとして、舞台に販売にそして、広報活動と活気あふれる一日であった。子供達の人気は、パトカーの運転席で、順番待ちをするほどであった。広報用の配布の品を用意したが、どんどん捌けてしまった。

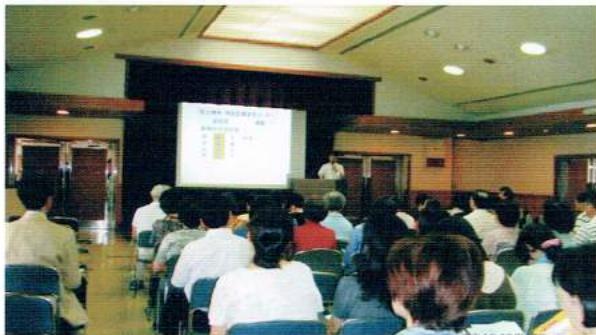
来年は、配布資料に保護司会の相談活動である『ひまわり相談』の案内を加えたらと思った。老いも若きも秋の日を浴びて和やかに過ごせる貴重な集いは、広報活動の場として最高の場で良い一日であった。

（堀分区 小森 正彦）



町田市長との懇談

〈薬物乱用防止啓発講演会〉
脱法ドラッグ乱用の危険性
「断る勇気」の訓練を！



7月13日(土)に薬物乱用防止啓発講演会が、町田市健康福祉会館で開催されました。

独立行政法人、国立精神・神経医療研究センター薬物依存研究部室長 船田正彦氏に「最近の薬物乱用事情」について講演をしていただきました。

保護者及び関係者など76名の参加者のうち保護司会からは、21名の参加がありました。

講師の先生からは、専門的なデータをもとに、具体的な事例で分かりやすくご説明をいただきました。薬物乱用の健康被害や交通事故など、周り

を巻き込む危険性、また、最近の脱法ハーブ乱用の現状など大変勉強になりました。

「タバコを吸わない子はいきなり薬物を吸わない」と言われ、まず、タバコに手を出させないことや「断る勇気」を訓練すること、規則正しい生活習慣をつけることの大切さを改めて認識させられました。

(薬物乱用防止推進町田地区協議会委員 中溝 珠枝)

**臨時総会を開催
事務所をサポートセンター町田に**

10月21日、第Ⅱ期定期定例研修終了後、下記の次第で臨時総会を開催した。

一、議長選出

一、議案 会則改正承認について

- ・第1章 総則(事務所) 第2条
- ・第2章 役員(役員等の選任) 第9条3
- ・第4章 会計等(経費) 第19条3

一、議長解任

嶋崎副会長の司会進行。議長には、忠生分区の高梨保護司を選出。主旨説明、質疑応答、活発な審議が行われ、会則改正が全て承認された。

(広報部)

**管外
一泊研修**

秋の駿河路と静岡県地震防災センターでの研修

恒例の管外一泊研修が11月12日(火)から13日(水)に行われた。

早朝から町田街道・東名高速道路を経て、まず世界文化遺産の三保の松原を訪れた。白砂の海岸と見事な枝ぶりの松林が美しい。

その後、日本平パークセンターの美味しい昼食を頂き、久能山東照宮を参拝した後で、研修先の静岡県地震防災センターを訪問した。

センターの概要や地震と津波の仕組みについて解説して頂き、その後津波の映像や「地震体験コーナー」で地震の揺れを実感させて頂いた。評語は「地震だ！ 津波だ！ すぐ非難！」で、火災への心得など、有意義な研修であった。

夜は館山寺温泉「サゴーロイヤルホテル」に宿泊し、研修の疲れを癒すと共に、会員相互の親睦を深めた。

翌日は遊覧船で浜名湖の風景や鍾乳洞「竜ヶ岩

洞」を楽しみ、お昼は浮世絵にも描かれた「丸子宿・丁子屋」で名物のとろろ汁を堪能した。午後は大覚寺で千手観音を拝観した。

研修を終えて、無事に町田市内各所で解散した。

二日間の研修を通して、保護司として、そして市民としての地震や津波に対する防災意識を高めるとともに、保護司相互の親睦と交流を深めることができて、有意義な管外一泊研修会となった。

(研修部長 鬼頭加壽代)

静岡県地震防災センター



杉山嘉彦先生を偲んで

小川 康夫

8月26日の夜半、保育園の園長から杉山嘉彦先生ご逝去の連絡を受け愕然といたしました。9月7日は杉山先生の誕生日で、病院に伺う予定おりました。世の「無常」を実感しています。

28日、ご自宅に伺い、30年以上のご交誼に感謝を申し上げ、ご冥福をお祈りいたしました。

杉山先生の生業は郵便局長でしたが、地元の保育園の理事長を35年、保護司も34年務められて、生き字引的な存在で立派な足跡を残されています。

先生は地区保護司会だより第74号に新任保護司研修の厳しかった事などを記述されています。

私事ですが、昭和60年、理事長の杉山先生と園長中村則子先生（保護司）の推挙により、保育園の運営に参画することになりました。

杉山先生、天上より次代を担う子ども達を温かく見守っていてください。 合掌

從五位 瑞寶雙光賞 紺綬褒章

(叙位は9月24日の新聞発表と10月1日の官報に記載)

各部紹介 ①

総務の仕事と総務部長の役目

総務部長 藤牧 素子

私が総務部長を拝命して最初に手掛けた仕事は、企画本部会議と総務部会の招集準備でした。

地区保護司会が一年間に行う会議で総務部が担当するものは他に総会、理事会、常任理事会があります。開催日程が決まると、会議場の確保、通知の作成と連絡、会議次第・資料の作成をします。

部長としては当日の司会、進行の役目を担います。また、年3回実施される地域別定例研修の際、会員の退任、再任、新任のセレモニーがあります。それに関しては総務部が準備します。限られた時間内に滞りなく進めるために前もって用意される文書と品の数々。携わってみて初めて、前任の皆様の行き届いた配慮がわかりました。

行政との連携の窓口も総務の仕事です。様々な場面でお互いの意思の疎通を図れるよう、役員の方々の活動を支えています。

横のつながりに多摩地区保護司会連絡協議会が

支えあい、共に輝きその先へ

更生保護女性会副会長 若林 文子

日本更生保護女性連盟は結成50周年を迎えました。記念の“集い”が6月18日に谷垣禎一法務大臣のご出席をいただき、東京国際フォーラムで行われました。また、前日には皇后陛下のご臨席を賜り記念祝賀会が開催されました。

10月8日に記念シンポジウムがフロラシオン青山で行われ、町田地区保護司として参加しました。

三鷹市長清原慶子氏の基調講演では、「支え合う」現場としての地域のあり方を話されました。犯罪をした人や非行のある少年を地域の一員として共に生きるという志向を地域の人々に私たちにはメッセージを発信していくことであるなど示唆に富んだ内容でした。

シンポジウムでは幸島聰元立川支部長(現さいたま保護観察所長)の「つながること、寄り添うこと」というお考えに心温まりました。

これからも保護司・更女として地域の人々と支え合い、共に輝き進んで行きたいと思いました。

あります。この組織の中にも総務部会があり、部長として、理事という立場で参加し、他地区の代表と立川支部の指導のもと、総会、多摩地区顕彰式典、第6ブロック連絡協議会、顕彰祝賀会などの縁の下の力持ち的役目を果たしております。

煩雑で、常に臨機応変さが求められる総務部の仕事。今年度は幸いにも三人のベテランが残っていただけのことになり、私を含め新人三人との絶妙なバランスでここまで進めて参りました。今後も各種会議、定例研修、新春の集い…と行事は続いているきます。

今回の紹介文は新任保護司の方にもわかるような内容で、と広報さんから注文がありました。

私自身が新任のつたない部長です。意を尽くせ



たでしょうか？若葉マークの許される来年5月まで寛容の目で見守ってくださることを切に願いつつ、皆様の活動の一助にと邁進して参ります。

第32回多摩地区更生保護事業関係者顕彰式典を開催

7月5日午後2時より東京地方検察庁立川支部大議室において、顕彰式典が開催された。

本年度の受賞者は127名（保護司49、更生保護女性会員62、保護司会事務担当者5、BBS会員9、協力雇用主1、更生保護事業関係者1）であった。

受賞者を代表し、北多摩東地区の保護司から「この感謝状を励みに、相手の気持ちに真摯に向き合い努力していきたい」という謝意が述べられた。

そして、東京保護観察所長の挨拶やご来賓からの

祝辞もいただき第1部は終了した。

第2部は、杉山立川支部長より「これから更生保護について一社会の期待に応えるためにー」と題し約1時間の講演が行われた。

体験を交えながらの講演は、更生保護関係者がそれぞれの立場において、今担うべき役割を再認識させられるものとなった。

町田地区保護司会からは、南分区の木村恵理子保護司が受彰された。
(広報部)

新任・退任保護司ご挨拶



**南分区
井上 泰一**

9月17日付で保護司を委嘱されました。2日間の新任研修を受け、町田地区定例研修会、南分区会等に参加させていただき、改めて責任の重さを感じているところです。

保護司の役割など、何もわからないままお引き受けいたしましたが、これから実践、経験を経る中で、諸先輩からのご指導を賜りながら、任務を果たしていく所存です。ご指導のほど、どうぞよろしくお願ひいたします。



**忠生分区
飯田 仁**

この度、9月17日付で保護司を委嘱されました。ご推薦をいただいた上で拝命しましたが、重責かつ重要な職務に身の引き締まる思いです。

今後、保護司としての責務が果たせるよう努力して参りますので、先輩保護司皆様方のご指導を賜りますようお願い申し上げます。



**南分区
井上 陽子**

この度、9月16日付で退任致しました。平成7年就任以来、皆様の温かいご指導を賜って、対象者と向き合うことができ、私にとっても学ぶことの多かった18年間でした。

今後は保護司活動に関わりを持った者として、ささやかながら、地域社会のためにお手伝いができるべと思っております。退任に当たりご指導いただきました保護司会の皆様に感謝申し上げますとともに、町田保護司会の益々のご発展と皆様のご活躍をお祈り申しあげます。

編集後記

先頃、子どもの犯罪に親としての責任を負おうとしないテレビタレントの言行が話題になりました。社明大会の講演で触れられた「10年毎の親の覚悟」の話があらためて思い起こされます。親も地域もどれだけ子どもたちに寄り添ってきたか、反省を迫られる講演でした。

“立ち直り 支える絆 地域から”を標語にした町田地区保護司会の広報パンフレットも出来ました。親と地域が一体となって犯罪のない明るい町田をつくる一助として活用してください。

異常気象が正常であるかのような2013年も暮れようとしています。このまま春・秋のない亜熱帯気候になってしまうのでしょうか。四季折々の風情が人の心を癒してきたことを忘れず、自然に対しても謙虚な気持ちで新年を迎えていきたいものです。
(鬼頭 明成 記)